

(仮称)区画整理記念・交流会館基本構想(案)に対する
意見募集(パブリック・コメント)に寄せられたご意見 (抜粋)

(平成28年1月27日15:00時点)

※意見募集(パブリック・コメント)は12月28日～1月27日17:30まで実施しました。

いただいたご意見

1. (仮)交流会館がめざす機能

- ・交流会館がハブの役割を担うという考え方は、過去、現在、未来に伝えていくという点でも大変よいと思う。
- ・①まちづくりのあゆみ、②出会いと交流が生まれる、③災害時の防災拠点とは過去、現在、未来とつながっていくイメージで。明るく進んでいくイメージの「交流会館」になればよいと思う。
- ・港区は大阪港と直結し、港区で働く外国人、居住人、海遊館に来る外国人、USJで働く外国人のマンションもあるので、交流案については、交流会館の構想案を知らせて彼ら、彼女らの意見などを聞いてみては。
- ・名称は「ハブ・ハンド」がよい。
- ・これまでの「区民センター」「老人福祉センター」「子ども・子育てプラザ」の3つがそれぞれ果たしてきた役割と利用状況と問題点等について、反省点や継続すべき点などが報告されていない状況で構想を語っても検討に値するのかわからない。
- ・「こうあってほしい」と希望するのは、「歴史展示こそ記念事業の核に！」という1点。
- ・例えば「港区歴史館」などの名称で独立した施設にすべき。
- ・区画整理の経過と成果を再度整理することはもちろん、その否定的側面ともされる諸問題(運河の埋め立てなど)も検証して、継続した調査・研究も可能な施設とするべき。
- ・老人福祉センターと子ども・子育てプラザを廃止せず、その2施設の機能の一体化としての「世代間交流」機能を記念会館に持たせることをやめ、ホールと図書館とエントランス以外の全スペースを歴史展示に充てることを希望する。
- ・次善の策として、せめて記念会館のワンフロア全面を使って独立した展示施設とすることを希望する。
- ・まちづくりのあゆみのパネル展示は不要。情報はすべてデジタル化して図書館に収納。常駐学芸員による資料編纂。テーマごとに映写解説。
- ・「まちづくりのあゆみを伝える資料の収集・展示・発信」とあるが、ここで語られるのは『過去』であり、あまり重きを置いてほしくない。「出会い・活動・交流の起点」こそ『未来』を語るもので、この交流会館の核であるべき。
- ・まちづくりのあゆみを伝える拠点の展示は、デジタルコンテンツに限るべきで、過去の展示より未来に向けての展示をしてほしい。

2. (仮)交流会館での取り組み

- ・「まちづくりのあゆみを伝える拠点」と「災害時の防災拠点」とは通ずる部分があり大事だと思われる。ほこりをかぶらない、日々更新できるような展示はできないものか？
- ・港図書館で区の歴史博物館として史料を展示し、戦争で被災した歴史や水害等のスペースをとる。
- ・区内の催事情報や地域活動等を集約して発信。区内の子育てや高齢者向けの情報が分かる機能も。港区には「みなトクモン」があるが港区のよいものを紹介できる展示を。
- ・自習室があればよいと思う。子ども達の学習の場。大人も静かに書類を書いたり、構想を練ったりするところ。高齢者も図書館で借りた本を読んだりできる。有料にして、本当に必要な人が使える場所を希望する。
- ・中高生が学習に使える部屋がほしい。
- ・オープンな多目的スペース、十分な採光が取れる明るい空間がほしい。何でもできるような広いロビースペース。ギャラリーなどで作品展示ができれば。区役所にあるギャラリーより少し広めでスペースを活用しては。ギャラリーは交流スペースの壁を利用する。
- ・いろいろな人が自由に入出入りし結果的に世代間の交流が起こっているような場所に。カフェスペース、喫茶・軽食コーナーを充実し、隣接院内食の販売やコンビニ的なものもあるとよい。
- ・利権で入る喫茶店は不要。セルフサービス。当然全館禁煙。

・飲食の持込はやめた方がよい。何でも持ち込まれると管理も大変。
・世代間交流の促進は良いアイデアだと思う。高齢者も生きがいを持ち、子育て世代は息抜きができる場が必要だと思う。(例)同じフロアーをアコーディオンカーテンで仕切り、必要に応じて開閉する。
・運動機能に関する施設は各所にバラバラに設置するのではなく、どこか一カ所に集約して障がい者と健常者や児童と高齢者の交流を日常的に発生させることができる。
・出会いと交流が生まれる起点として、一部の区民寡占化はご法度。図書室を除き全面フラット・オープンスペース化。移動間仕切りで必要スペースを確保。
・有料間仕切りスペースの有効利用。
・有料多目的ホール・バックヤードでの催事。
・大きなイベントや軽スポーツが開催できる中核となるホールで、交通の核となる場所なので区民に限らずいろいろな人を呼び込みたい。
・ホールの舞台袖に簡易な音響操作機器がほしい。発表会等に必要である。リハーサル時の調整や講演会などの音響操作に利用したい。
・ホールの音響設備について、現時点で最新の装置といえども時間とともに劣化し不良になることは避けられず、10年先、30年先に新しい装置に交換できるのかどうか、専門家の意見も聞いておいては。
・ホールや会議室、研修室などは利用頻度の高い広さに。またパーテーションで区切れるような広さに。会議室は可動式の壁とする。遮音性能の徹底。
・調理スペースは、20名ぐらいで使える調理室を。
・港区民センターを新たに弁天町駅に移転する際には和室をなくさないでほしい。使用状況の低下で採算がとれないと全国の区民センターの和室がなくなっていく昨今、少数でもなくては困るという区民、市民の声を聞き届けてほしい。
・整体やマッサージ施術用の簡易ベッドや、ストレッチヨガマット、お茶やお花の道具類、電気ポット、ブランケット、姿鏡、壁鏡張り、加湿器、空気清浄器、掃除機などを設置または貸出しできるようにしてほしい。
・各部屋の備品の机には車輪が付いていると移動しやすい。
・使用時間限定の有料SNS導入。
・他の人がどのような活動や使い方をしているのかがわかるような場所を。
・発表展示会場として使いたい。
・今の施設でやっている講座などを継続的に行っていきたい。もっと若い人が増えるレッスンを増やしてほしい。病院が隣接するので予防医学の知識が得られ体験できる場にしたい。三世代で利用できる施設にしたい。周辺小中学校卒業生を招待した催事支援、学生を主体とした高齢者向けの催事支援を。
・幅広い世代が活動、交流できる講座やイベントなどの充実。
・児童や保育園児などと高齢者が交流するようなものができれば。退職した方などを対象に昔遊びなどを子どもたちに教える高齢者を港区で募集して子どもたちに教えたりする。
・本を借り(読み)に来た小中学生とイベントや講座を開催する高齢者が昔ながらの料理や昔遊びを通じて交流する。
・ボランティアに来た高齢者とあそびの広場に来た子どもが小ホールで卓球を通じて交流する。
・つどいの広場帰りの親子と病院帰りの高齢者が図書館で本を紹介しあう。
・お茶や和食、お花など、外国人に「和」を体験してもらえる企画や取り組み。
・文化やアートの交流施設に。
・それぞれの活動を結びつけるコーディネーターの導入。
・施設が一つになることで今までの機能を失わないようにしてほしい。区民センターではボランティアが部屋を借りて講座を開いていることであったり、子ども・子育てプラザでは子どもが毎日遊べる場所があることや障がいのある子もない子も見守ってもらえるなどの対応、行われている事業などをきちんと継続してほしい。それにプラスした交流ができればよい。

・子育てプラザの広い子どもの遊べる場所。
・授乳スペースの充実。
・子育てサークルで集うことのできるもう少し大きな部屋があるといい。
・一時保育をしながら、保護者を対象としたイベントの実施。
・孫と来て楽しめる、親子で来て楽しめるようにしたい。
・港区祖父母の日を設定し、託児所と連携した催事。
・地元企業参加での簡易キッズシアターを開催する。
・乳幼児の読み聞かせスペース。
・成長記録のサービス。
・子どもと一緒に飲食できるスペースがあるとよい。
・子どもと来て楽しめるように施設を充実してほしい。
・読み聞かせ用の図書館。
・大きめのプレイジム。
・卓球やビリヤードなどができる軽運動室。
・厨房をつくって高齢者の食事サービスに活用してほしい。
・囲碁、将棋、ビリヤードなど男性の老人園になっている。また新規に入りにくい雰囲気がある。
・図書館には、本について相談できて探してくれる人は確保してほしい。
・本に関わるボランティアへの活動支援を充実してほしい。
・講演会やおはなし会などの催しなど多目的に活用できる部屋がほしい。
・図書館まで行かなくても本の貸出や返却ができるよう利便性を高めてほしい。
インターネットを通して本や資料等の情報の入手が容易になった現在、図書館は、単に本や資料を提供する施設でなく、個人やグループで学び合っている主体的な学び(特に子どもの)を積極的に支援する施設となしてほしい。そのためには、多様な学び・コミュニケーション・グループでの協同作業を支援する心地よい学習空間(ハード)を整備するとともに、それらを支援する様々なサービスや事業(ソフト)も行っていきたい。
・地震に対する基地になる避難所また物品の備蓄。
・交流会館に防災までの機能を負わせるのは過大ではないか。緊急時は多様な避難者が押し寄せることになるが対応することができるのか。また面積が限られている中で備蓄倉庫は確保可能なのか。そのあたりをシミュレーションできているのか不安である。
・大阪みなと中央病院との連携で災害避難対策も講じられており安心している。ヘリポートの導入は新しい会館の面積では無理ではないかと思う。病院が屋上にヘリポートを設置するのであれば災害時、病院と会館とがどのように対処するか、協議して練っていく必要がある。
・災害時の防災拠点として、災害状況をリアルタイムに表示でき、減災指揮を容易にしたスクリーンのあるバックヤードがある多目的ホール。
・多目的ホールバックヤードでの減災指揮、ホールは救急救命・救護所。

3. 運営にかかる基本方針

・立派な施設ができて、利用する人のマナー、公からの一方的な制約など、運営が一番大変なところだと思う。(例)交流会館も利用者に無償ではなく、少額でも支払ってもらうようにしてほしい。
・道徳教育をできるだけしっかりやってほしい。最近は特にマナーの悪さが目立つ。
・港区民としては、使用料はできるかぎり低めに設定をして、そのことにより利用増を図るべきと考える。
・エコやリサイクルコーナー、子どものお店コーナーも時々できるような「特設コーナー」があればよいと思う。
・セキュリティはしっかりした上、観光客や地元の人が使用しやすい空間をつくる。
・交流会館で実施される様々な取り組みに関する情報がより入手できるとよい。
・予約体制について、社会人も予約しやすくすべき。

- ・バリアフリーへの対応については、管理・運営にも関わるものである。スペース等を設けるだけでなく適切な誘導ができるなどの知識をもったスタッフがいるなど管理者に配慮してほしい。
- ・使いやすい会議室が安価で借りられるように。
- ・イベント等については、市民中心で企画運営していく。
- ・英語やその他の外国語を話せるボランティアの方々を中心に外国からの観光客をもてなす。学生や社会人のボランティアが育つ取り組み。
- ・ホールは事業的な要素を入れることで、運営などにつながるお金を生み出す仕組みを入れていく。
- ・この種の事業に絡んでくる利権者を見越し、勘案しておかなければ閑古鳥が鳴く無駄づかい施設となる。
- ・企画公開、公開説明と区民の質疑、企画者の応答。予算を含めた企画・設計・運用をにらんだ人気投票を得た上で決定すべき。
- ・八方美人を狙わず、この地の成り立ちから防災・減災を柱にした運営でも可。
- ・運営する人や団体を長期固定化してはいけない。個人的利害が生じることなく、利益誘導などないようにしたい。
- ・小中学校などと連携し、なるべく若い人に楽しくコミットしてもらえる機会をたくさん設けたい。
- ・警察、消防、大阪みなと中央病院などとも連携できるように。オープンでフラットな運営を。

4. その他全般

- ・弁天町の駅は港区の入口なので区の特徴になる施設に。
- ・駅接続はエレベーターで1階から3階までの動線の確保を。シンプルで安く作れる施設に。長年使えるように。
- ・隣が病院ということで感染症などの蔓延防止などのリスク対策も必要。
- ・安全面からは受付を別々に設けるなども考えるべきか？
- ・エントランスは入りやすいように、何をしているのか分かるよう見渡せる空間があれば。
- ・1階のエントランス等共用するところ(床、土間)、雨の日はすべりやすいので、すべり止めの工夫をしっかりとしてほしい。
- ・多目的ホールの収容人数は小ホール100名、中ホール300名。大ホール不要では？
- ・建築技術上ホールを1階にとることは困難なことが多いため、動線の計画等で混雑に対応していくのがよいのでは。
- ・高齢者、子ども施設は、ベビーカー、車いす、歩行しにくい方がいるため、1階がよいのでは。
- ・座敷の部屋、和室で華道、茶道などの日本文化の拡散、発信。
- ・自転車置き場の整備。
- ・パーキング(駐車場)の充実。
- ・芝生や緑があふれる庭園でくつろぐ。屋上にガーデンテラス。
- ・屋上農園等はスペース的にかなり無理があるのでは？利用者の健康と幸せを守ってくれる、小さくてもいいから神社が屋上の片隅にでもあればよいと思う。
- ・雨水に含まれる有害濁物を簡単にろ過する方法があればトイレ利用もOK。緑化用の水源にしてもOK。会館の南壁面に太陽光発電用のパネルを設置したらよいと思う。
- ・太陽光発電と自家発電の違いは？スペースとコスト。急な停電のときすぐ役立つのはどちらも同じか？
- ・世界一の区画整理事業の総まとめとなったが、協力していただいた港区民の方々に少しでもご恩返しができるよう、港区在住の建設業界、電設業界、セメント業界などに仕事の発注を優先できないか、法的にどうなのか検討してほしい。それぞれの業界ができないというなら仕方ないが。
- ・防災拠点としての機能を向上させるために、「大阪みなと中央病院」との連絡通路の設置を提案する。連絡通路は災害時のみ機能する仮設でも可。
- ・津波災害時には、津波がおさまった後でも弁天町駅前を中心に車両で渋滞混雑する(中央大通の北側と南側で分断される)ことから、地下鉄弁天町駅からの連絡通路は非常に重要。

・在宅医療の支援は交流会館ではせずに、その機能を大阪みなと中央病院が全面的にバックアップするということによいのか。

・建築家(建築会社)などへプロポーザル募集する際には、企画の自由度を確保するため、なるべくしぼりのないように願う。例えばホールは400席の確保が最重要でなく、防音や音響設備、客席収納方法などを鑑みて300席でも構わないのでは？ワーキングでの意見をガチガチに反映するよりも、「交流の起点」としてふさわしいデザインを望む。港区民が愛着できるデザインを期待する。

・マクドナルドやサイゼリヤといったファーストフード店やファミリーレストランで勉強している学生や大人を見かける。まわりに気兼ねなく落ち着いて学べるスペースをつくって、「想像発信の街」をアピールしたい。文化的な街(港・アート、学校(教育施設)、病院、スポーツ施設、音楽(関西フィルの基点))

・新しい港区が弁天町を中心に発展していくために、私たち世代と若い世代が協力しながら未来に向かっていきたいと思う。

・(仮称)区画整理記念・交流会館は今後のまちづくりに貢献する施設として大変重要である。